

地域ケア会議での取組について



令和5年10月5日（木）
第2回地域共生専門部会
廿日市市健康福祉部地域包括ケア推進課

地域ケア会議の機能

①個別課題解決機能

- ・地域の支援者を含めた多職種が多角的視点から検討を行うことで課題解決を行う。
- ・自立支援に資するケアマネジメントの質を高める。

②ネットワーク構築機能

- ・地域の支援者等の相互の連携を高める。

③地域課題発見機能

- ・個別ケースの背後に潜在する同様のニーズを抱えた住民を見出し、解決すべき地域課題と優先度を明らかにする。

④地域づくり・資源開発機能

- ・インフォーマルサポートや地域の見守りネットワーク等、必要な資源を地域で開発する。

⑤政策形成機能

- ・既存の施策や予算等では地域の課題を解決していくことが困難と考えられる場合に、解決へ向けた新たな施策の立案や実行に繋げていく。

各圏域での地域ケア会議実施状況（令和４年度実績）

圏域	会議の内容	回数	地域ケア会議の内容
廿日市東部	・ 個別地域ケア会議 ・ 地域ケア会議	9回 6回	・ 地域ケア会議の進め方
廿日市中部	・ 個別地域ケア会議 ・ 地域ケア会議	9回 8回	・ BCP（業務継続計画） ・ 百歳体操をやってみよう（ケアマネジャーと民生委員の交流）
廿日市西部	・ 個別地域ケア会議 ・ 地域ケア会議	9回 6回	・ 認知症について ・ 百歳体操をやってみよう（ケアマネジャーと民生委員の交流） ・ 転倒予防について ・ 救急搬送について
佐伯	・ 個別地域ケア会議 ・ 地域ケア会議	5回 9回	・ 個別避難支援計画について ・ デマンドバスの利用、移動販売について ・ 認知症を取り巻く現状から取組を考えよう
吉和	・ 個別地域ケア会議	12回	・ 個別地域ケア会議
大野	・ 個別地域ケア会議 ・ 地域ケア会議	9回 8回	・ 高齢者福祉サービス ・ ひきこもり支援 ・ 認知症支援 ・ 在宅医療と看取り ・ ACP
宮島	・ 個別地域ケア会議	15回	・ 個別地域ケア会議

※地域ケア会議の参加者：介護支援専門員、民生委員（住民）、介護保険サービス事業所、医療機関、消防、市民センター、地域包括支援センター、行政 等

西部圏域地域ケア会議（R5.3.22） 救急搬送について

【きっかけ】

- ① ひとり暮らし高齢者の救急搬送時に、救急隊から「誰か同伴してもらわないと搬送できない」と言われた。近所の人が同伴してもいいと言われたが、「本人の状況をよく知っている人の同伴をお願いしたい」と言われ、担当ケアマネジャーが同伴した。

このような事例がよくあり、対応に困ることが多い。

- ② 在宅医療・介護連携相談支援室が、医療機関や介護事業所等にヒアリングを実施。高齢者の救急搬送について、“受け入れ先が決まりにくい”、“家族がいない場合に、入院準備をケアマネジャーや民生委員が行っており負担が大きい”、“病院に地域医療連携室があっても夜間休日対応は難しい”等の意見があった。



地域ケア会議で、高齢者の救急搬送をスムーズにするために、関係者それぞれが何ができるかを考えてみる。

■参加者

介護支援専門員、民生委員、JA広島総合病院、阿品土谷病院、廿日市記念病院、廿日市市消防本部、在宅医療・介護連携相談支援室、社会福祉協議会、行政、地域包括支援センター 計42名

■内容

- ①西部地域の高齢化率について
- ②救急搬送の現状
- ③緊急連絡票事業について

■グループワーク

ケアマネ）

- ・緊急連絡票のことを知らなかった。
- ・緊急連絡票が必要と思ったときに誰に連絡したらいいかわかった。
- ・ケアマネが関わるのは介護認定が出てからになるので、それ以前のことがわからない。民生委員と連携を取り合いたい。
- ・ACPを行ったケースで緊急時の連絡先を関係者で把握していたのでスムーズに対応できたことがあった。
- ・緊急連絡先にお薬の情報、保険証番号があるといい。

医療機関）

- ・緊急連絡票の内容が病院にも共有してもらえるとよい。
- ・地域の取組や現状がわかってよかった。
- ・情報がわからないときに民生委員を頼ることがある。救急車に同乗してもらえると助かると思う反面、治療等の判断を仰がれても困るだろうと感じている。

民生委員）

- ・緊急連絡票が消防の役に立っていると聞いて励みになった。
- ・救急車の同乗を求められることがあるが、断ってもいいのか迷う。
- ・身寄りがないうちに病院から入院の同意を求められ、困ることがある。
- ・緊急連絡票の内容を見せてもらえない。民生委員としてどこまで介入したらいいのか。

全体）

- ・地域で独自の緊急連絡票を取り入れているところがあるが、扱いに差が出ている。
- ・最期をどのように迎えるか、元気なときから話し合う機会が必要。
- ・かかりつけ医がいないと搬送がスムーズにできないが、元気な人はかかりつけ医がない。